

海老名市立海老名中学校 学校運営協議会 議事録
(令和4年度 第3回)

- 1 日時 令和5年1月26日(木) 13:30~15:00
- 2 場所 海老名市立海老名中学校 会議室
- 3 出席委員 大島直子委員長、渡部美憲委員、山田佳子委員、猪飼誉之委員
谷川治委員、小田島恵子委員、小坂浩久委員、河野洋委員

4 会議の内容

(1) 学校長挨拶

大島校長：落ち着いた学校生活を送っている。今年度の総括と進級や進路に向けて一人ひとりが自分と向き合う時間が多くなっている。

(2) 全国学力・学習状況調査の結果

大島校長：本校の調査結果から国語・数学・理科の「課題のある点」「今後の具体的な指導改善のポイント」について説明した。また、生徒質問紙の結果について、生徒の状況を説明した。令和5年度の実施内容や方法も説明した。

(3) 学校教育活動アンケートの結果

河野委員：アンケートの集計結果分析について説明した。「生徒は学校での行事を通して成長している。」(保護者回答)、「私は友だちや周囲にたいして、優しく接することをこころがけている。」(生徒回答)、の良い評価の回答割合が高く、今後もつなげていきたい。回答率が低いことが課題である。

(4) 学校の様子

大島校長：部活動の結果について説明した。

小坂委員：一人一台端末の導入による現在までの活用推進に向けての取組と課題について説明した。

(5) 意見交換

猪飼委員：高校1年生も推奨機器を案内し、端末を家庭で購入してもらった。以前から持っている機器で校内ネットワークにつないで活用していたので、それとの違いを明確にすることが難しい。体育や理科で有効に活用している。効果的に端末を活用する場面を見極める必要がある。

渡部委員：若い世代の就労者でも同じ課題を感じる。丁寧に伝えていくことが大切である。

山田委員：職場で実施したWebアンケートの回答率が低く、工夫が必要である。世代をつないで業務を進めることが大切である。コロナ禍からの調整が難しい。

小田島委員：コロナ禍で経験していないことが多く、できなくなっていると感じる。関わりが薄くなっていることが普通であると考えられる傾向があると思う。

谷川委員：全国学力・学習状況調査の結果を各学年の取組に生かすことが大切である。効率よくやると関りは薄くなる。人との関りを大切に、どのように取り組んでいくかが課題である。